

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

学校番号 20

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。
2 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談含む）
現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> • 問題行動数は、前年比2割ぐらい減少した。 LINEやInstagramなどSNSへの写真や動画の登校、書き込みなどインターネット関係の問題が今年が多発し、問題行動数の4割が該当した。 特別指導（校長訓戒）は校内での生徒間暴力、度重なる授業妨害と迷惑行為（セクハラ行為に該当）に対して実施した。 • 交通事故数は、前年比4割ぐらい減少した。 全て、自転車乗車中の事故で、信号のない交差点での出会い頭事故や坂道での事故が多く、一旦停止、後方確認、左右確認など安全に登校できるよう交通ルール遵守の徹底を今後も呼びかけが必要である。 • 髪型や身だしなみについては、基準を見直し、全職員で指導にあたることできた。 夏休み中に髪をさわる生徒が数人発生（パーマ、染色）。親がそれを容認する傾向があり、校則遵守のためには家庭の理解と協力は不可欠であることをご理解いただくよう今後もお願いする必要がある。 • 「8時30分には完全登校」とし、遅刻減少を目指した。ほとんどの生徒は、8時30分登校ができるようになった。ただ、数名の固定メンバーが年10日程度遅れた。 遅刻3回目以降は1回遅刻するごとに、1回「朝の挨拶運動」へ参加させ、生活習慣の改善と挨拶の大切さを学ばせた。 • 今年度より、携帯・スマートフォンの使用は全時間、校内での使用禁止とした。しかし、昼休みに使用する者が数名おり指導した。 今年度も、LINEやInstagramなどSNSへの写真や動画の投稿や拡散など、それを見た第三者からの報告で問題行動と思われる事案が発覚した。今後、継続して、情報モラル教育の徹底を図っていく必要がある（特に1年生）。 • 生徒指導の進め方については、入学式や育友会総会等において学校の指導方針を保護者に伝えるとともに、HPや配布物により理解していただいている。 • 教育相談については、今年度より、教育相談室に2名の教員を配置し、教育相談係、養護教諭を中心に全職員で当たる体制ができてきた。更にスクールカウンセラーによるカウンセリングや教職員への校内研修など「心の教育」に対する意識が高揚されてきた。 • 令和元年度の20日以上欠席者は8人（前年比－11人）。 うち、30日以上欠席者は5人（前年比－3人） • いじめに該当する事案は3件発生した。1件は両者によるけんか（生徒間暴力）であったが、うち1名が翌週に転校した。残りの2件は日常仲良くしている仲間同士のちょっとしたトラブル（受け止め方の違い）から訴え出たもので、加害者とされた方は全く悪気はなく、愛情表現からの身体接触やSNSへの書き込みであったため、被害を訴えた生徒もすぐに納得し、現在はいじめ事案は解消している。

4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自己指導能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> 時間励行と明るい挨拶の実践 問題行動の未然防止、早期対応の徹底 ◇規範意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> 端正な身だしなみ 交通ルールの遵守とマナーの習慣化 関係機関等との連携 情報モラル教育の徹底 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒部会、企画委員会、各学年会、職員会議、各種委員会などを通じて、全職員の共通理解を図る。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 毎朝の遅刻指導。保護者・MSリーダーズによる挨拶運動（毎月1日と15日） (2) 教育相談週間（年2回）の実施 (3) 学期はじめの服装頭髪指導・年間を通してのイエローカードの実施 (4) 自転車点検・育友会と連携した朝の交通指導、夜間防犯のための反射板の生徒への配布 (5) 揖斐郡内の小中との連携、他の高校との連携、必要に応じた警察との連携 (6) 教育相談系の活用・スクールカウンセラーの活用・スペシャリストサポート事業等の活用・専門機関との連携 (7) 交通講話、情報モラル教室、薬物乱用防止講話、自転車安全運転教室、命の大切さを学ぶ教室を実施。	(1) 欠席、遅刻者数の推移・問題行動、いじめの認知件数の増減。 (2) TPOに応じて、端正な身だしなみができているか。イエローカードの配付数。 (3) 交通事故件数の増減、不審者被害の増減。 (4) 必要に応じた情報の共有ができているか。 (5) 不登校生徒の増減。 (6) 保健室利用者（教育相談に関するもの）・相談室利用者の増減。（ただし、これについては減少すればよいというものではない。早期段階で相談でき、解決できる状況を常に作っておくことが重要と考える） (7) いじめ事案件数（小さなことも見逃さないために件数が増加することがマイナスではない） (8) SNSへの書き込みなど、情報モラル違反者の数	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導担当者、副担任を中心として、全職員が登校時に挨拶・遅刻指導を実施した。遅刻が5回以上になった生徒にはボランティア活動を課すようにした。 教育相談、i-check、迷惑調査を通して、気になる生徒や問題を抱えた生徒に接しながら「考え、自己決定させる」指導を実施した。 平成25年度より年間を通してのイエローカードによる指導を継続実施した。頭髪、スカート丈、ボタンなどの身なり指導、また、携帯・スマートフォンのマナー違反に対する指導など一週間の継続指導を課した。 4月（春休み中）に業者による自転車点検を実施。 5月、揖斐警察署（交通課長）による交通講話、7月に自転車安全運転教室を実施した。 育友会と連携し、月1回朝の交通指導を実施した。また、危険箇所の見直しによる登下校のルート変更を実施した。 揖斐郡内小中高生徒指導連携強化委員会・学校警察連絡協議会への参加と情報交換、学校・警察とのサポート制度の活用。 	① 全職員による挨拶、遅刻指導ができたか。 ② 職員間で共通理解を持ち、i-checkや迷惑調査を受けての迅速な対応ができたか。30日を超える不登校生徒数の推移。 ③ TPOに応じた端正な身だしなみができているか。 ④ 交通事故が減少したか。 ⑤ 安全を意識した自転車の乗り方ができているか。 ⑥ 保護者の協力が得られているか。 ⑦ 必要に応じて、関係機関等と連携し、効果を上げることができたか。	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D

<ul style="list-style-type: none"> 6月にNTTドコモ社員より、情報モラルに関する講話を実施。インターネットの危険性についての学び直しを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 情報モラルについて、正しい知識を得られているか。 ⑨ 自分が所有しているスマートフォンの使用方法について、高校生としてのルールを守った使用をしているか。 ⑩ SNSへの写真や動画の投稿については細心の注意を払い投稿しているか。 	A B <input checked="" type="checkbox"/> C D
11 成果・課題	<p>○平成25年度より、身だしなみ指導の方策として、イエローカードを導入した。違反者には、5日間該当教員のサインをもらうという方式を継続した。それにより、女子のスカート丈や、男子のズボン等の身だしなみは、大幅に改善された。3年生には「着こなし講座」を実施し、規定違反だけでなく、しっかりとボタンを止める、リボン、ネクタイの結び方など着こなしについての意識の向上を図った。</p> <p>○昨年情報モラル違反者が増加したため、情報モラル講話を学年ごとでも実施し、更に携帯・スマートフォンの使用制限も強化した。そのためか情報モラル違反が大幅に減少した（ネットパトロールでの違反者は0）。しかし、LINEやインスタグラムなどのSNSへの写真や動画の投稿によるトラブルは後を絶たない。校内での使用制限だけでは食い止めることができない状況である。家庭の協力なしでは、今後も情報モラルに関するトラブルはなくなると予測される。</p> <p>○全国的に交通事故が4月、5月に多発していることを受け、平成29年度より4月、5月を交通安全強化月間とし、育友会との合同での交通指導を2回行うなど、生徒、地域へ積極的に呼びかけた。その成果もあり、年度当初の事故は激減した。（年間6件の事故が発生した。全て自転車乗車中。無傷、又は軽傷で済んだ）</p> <p>▲地域からの要望や苦情として、登下校時の生徒の交通マナー違反等に関してのものがあつた。イヤホン使用などの「ながらスマホ」に関する苦情で、登校時、下校時に職員が、校外の見回りを定期的に行い、指導した。</p> <p>▲平成29年度、(財)日本交通管理技術協会より「自転車通学安全モデル校」として推薦を受けた。「自転車通学安全モデル校」に恥じないよう徹底した交通マナー向上を呼び掛けた。</p> <p>▲毎年、教育相談を必要とする生徒がおり、それに伴い教育相談室登校者もいる。令和元年度より、教育相談室に常駐する教員を2名配置し、養護教諭と連携して教育相談に当たった。そのため、教育相談室登校者に対して、適切な対応が行われ、短期間で教室に戻れる生徒もいた。また、スクールカウンセラーのカウンセリング（スペシャルサポート事業を含む）による的確なアドバイスで生徒一人一人の心のケアをすることができた。このようにスクールカウンセリング・スペシャリストサポート事業の導入により重大問題になる前にケアできた。カウンセラーより、専門機関への紹介をして頂き、連携が図れたことも大きかった。来年度以降も重要な事業となる。</p>	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
12 来年度に向けての改善方策案 ◎身だしなみに関して イエローカードを活用しつつ、シャツ出しなど細部に渡り、指導し続けていく。一新した女子の制服が、令和2年度で3学年揃うため、端正な身だしなみを指導の重点に置く。 ◎情報モラル教育に関して ネットパトロールでの違反者は皆無であつた。歩きスマホも見られなくなった。しかし、昼休みに使用している生徒が数名いた。来年度は0人にしたい。そのための策を講ずる必要がある。 近年の問題として、LINEやインスタグラムを中心としたSNSへの写真・動画の投稿や書き込みな		

どインターネットに関する問題は大きな問題である。情報モラルに関する教育を充実させ、生徒に正しい知識を伝え続けなければ、この問題は減少しない。そのために、外部講師による情報モラル教室だけでなく、教員による情報モラル教育を実施する（特に1年生に対し）。

スマホ・ケータイの契約者である保護者には、インターネットに関する危険性を理解してもらい、我が子に対し、しっかりとした約束事(制限やルール)を作成し、確実に守らせるぶれない姿とともに、フィルタリングサービスの活用は重要である。

◎いじめ問題について

さらに生徒への「心の教育」の充実を図ることが重要である。「あたたかい言葉掛け運動」などおたがいへの思いやりの心の育成に努める。

SNSへの写真や動画の投稿、書き込みの危険は、生徒自身が「何気ないこと」として日常、行っていることの中には、相手によっては心の傷になる場合があることや内容によっては犯罪行為に発展する可能性があることなど、利便性に潜む、危険性を今後、計画的に教育していく必要がある。

◎H27年度、ユネスコスクールに認定

今年度もボランティア活動にも積極的に取り組み、MSリーダーズを中心に地域活動に取り組んできた。このような実体験の中で当たり前のことを心を込めて当たり前にできる「凡事徹底」の精神を育む取組については次年度もさらに発展させていきたい。

◎教育相談について

i-checkや、迷惑調査(年3回)を通して、迅速な対応ができるようになってきた。令和元年度より、教育相談室に教育相談係2名が常駐するようになり、養護教諭と連携した教育相談活動が充実した。更にスクールカウンセラーによるカウンセリング、スペシャリストサポート事業の活用、専門機関との連携は、職員の負担軽減とともに、対象生徒とその家族の安心感を生むなど、大きな成果として表れている。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月13日

【意見・要望・評価等】

- 高校生活で、一番大切なのは、まず、毎日休まず学校に通うことだと思う。その点、池田高校の生徒たちは、毎日楽しそうに学校に通っているようなので安心し、嬉しく思う。今の子どもたちは、様々な情報や価値観の中で生活しているので、私たちが思っている以上に多くのストレスを抱えているのかも知れない。そんな中で心を病んでしまうことのないよう、悩みを打ち明けられる人、場所があることは安心できる。何より、日々の生活の中で、友達や先生と何でも話せるような信頼関係を築いてほしい。
- きめのこまかい生徒指導を実践しておられる。
- 問題行動が確実に減少してきた。
- 問題行動数、交通事故の減少は大変良かったが先生方の一生懸命なご指導に対し、特別指導を必要とする問題行動が発覚するのは残念である。
- スクールカウンセリング・スペシャリストサポートの導入は良かった。